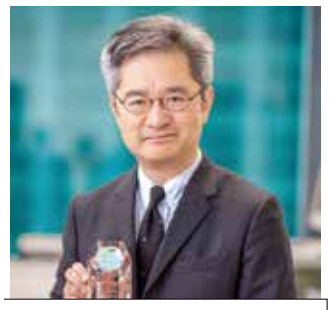
定年退職の皆さん

３月に定年を迎えられた教職員の皆さんを紹介します。大学と学生たちに、思い出と励ましの言葉を残してくださいました。　（敬称略）

教員（8人）

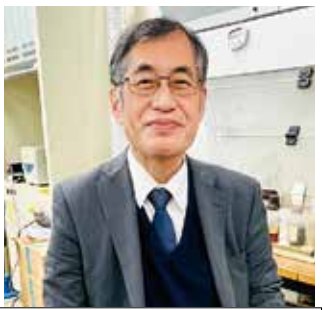
緒方　隆志（機械工学科・教授）

〝光陰矢の如し〟でしたが、充実した12年間でした。皆様に感謝申し上げます。



長瀬　亮（機械電子創成工学科・教授）

成長する学生を見守ることがなによりの心の糧になりました。みなさん、ありがとう！

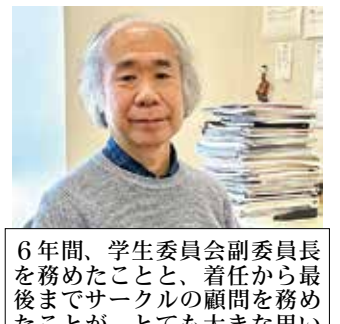


杉浦　修（電気電子工学科・教授）

多くの学生と接して教育の多様性とその奥行きを学びました。

石原　健也（建築学科・教授）

学生達と学んだ23年を糧に第３フェーズの建築家人生を歩みたいと思います。



六澤　一昭（情報工学科・教授）

６年間、学生委員会副委員長を務めたことと、着任から最後までサークルの顧問を務めたことが、とても大きな思い出です。千葉工大、そして、情報工学科に感謝します。

谷本　茂明（プロジェクトマネジメント学科・教授）

教職員・学生の皆様、ありがとうございました。百周年に向けさらなる発展を祈念しております。

越山　健彦（金融・経営リスク科学科・教授）

皆様のご健勝とご活躍を祈願しています。

職員（3人）

畑　誠之介（創造工学部・准教授）

長い間大変お世話になりました。東日本大震災の時、自宅から大学まで自転車で来たことが印象深く思い出されます。

井上　光市（施設部・部長）

皆皆様のお力添えにより充実したキャリアを送る事が出来ました。大学創立100年に向けて益々発展されることを心より願っております。

慈地　孝志（警備主任・総務担当）

お世話になりました。心より、感謝申し上げます。ありがとうございました。

齊藤　幸吉（警備主任・新習志野学生担当）

感激
感動
感謝

久々 吹奏楽響く

▼部の定期演奏会 復活

新型コロナウイルス禍で、活動できずにいた文化会吹奏楽部（堂本蒼太部長＝知能メディア工学科２年、部員40人）の第31回定期演奏会が２月25日、２号館３階大教室で開かれ＝**写真**、優雅で力強い演奏が４年ぶりによみがえった。

定期演奏会の伝統は一時、消える寸前になったが、部員らが個々に練習を継続。昨年末に出た「定期」復活話を新年で実現させた。

演奏会は第１部と２部、計９曲で構成。久々にダイナミックな管楽器が聴ける、と学生や教職員、部員の家族らが会場を埋め、部のＯＢ・ＯＧたちも駆けつけた。

息のあった演奏にパフォーマンスを交えてプログラムを展開。最終曲とアンコール曲にはＯＢ・ＯＧも演奏に参加し、観客を満足させた。

部長の堂本さんは「協力してくださった方々にお礼を申し上げたい。昨年12月に『定期演奏会を復活しよう』という話になり、会場確保、選曲やポスター、プログラムの製作を急ぎました。顧問の大川茂樹先生（未来ロボティクス学科教授）にはアドバイスやＯＢ・ＯＧへの連絡をしていただき、感謝しています」。

卒業生の表谷祥吾さん（経営情報科学科２０１９年卒）は「定期演奏会の連絡をもらい、現役とＯＢ・ＯＧ間で何かつながれないか、と一緒の演奏を相談しました。音楽は年代を超えた世界共通言語で、みんなで一緒に演奏するというのはとても幸せなこと。卒業しバラバラになったメンバーが、部をベースにまたつながれたかなと思います」と話していた。

PPA

「お姫様は、今すぐ大学を去りなさい！」

男女雇用機会均等法が施行される数年前の学部移行のオリエンにて教授からの一言は、今でも忘れられません。振り返ると、女性であることに甘えず、真剣に学べとの教授の薫陶であったのではと思います。現在であれば、不適切にも程があるともいわれかねません。

３月になり、採用広報開始となり、就職活動も本格化。均等法以降は、採用活動においての差別は解消されつつも、男女の賃金差異の公表や、男性の育児休暇取得の目標設定の義務化など、男女に関わらず、全ての人が仕事を楽しめ、充実した日々を過ごせるための施策が進んでいます。

「働くことはおなかを抱えて笑うほどの楽しさはないが、ほくそ笑むほどの楽しさがある」。

社会人も悪くないと、昭和から働いていて感じることです。学生・社会人生活を楽しんでほしいと思います。

ご縁があり、ＰＰＡ会長を務めさせていただき、瀬戸熊理事長を初めとして教職員、保護者の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。

ＰＰＡ会長　瀬尾　千里

四季雑感

1月にオーストラリア・シドニー郊外の研究機関に2週間半滞在してきました。妻も他大に勤務する同業者で、子供2人と家族4人で行ったのですが、現地保育園に預けるまでが大変でした。有資格者による母子手帳の英訳、現地病院での予防接種記録の確認・追加の予防接種を経て、やっと登園できるようになりました。下の子は、やっと日本語が話せるようになってきたところに、英語環境に放り込まれ、かなりストレスだったようですが、毎日お迎えの時には、庭で汗だくになって（真夏！）おもちゃの車を乗り回していました。

私も、自身の研究の紹介や共同研究の相談が進むとともに、お昼休みに人生初のクリケットに挑戦しました。広島カープの木村昇吾選手のクリケット転向以後、ルールを覚えたいと思っていたのですが、やっと大まかに理解できました。正式種目として復活する２０２８年のロサンゼルス五輪までには試合を堪能できるレベルにまで勉強せねばと思っています。

しかし、予防接種の効果が出始めるのに接種後２週間くらいかかるんですよねえ。

惑星探査研究センター　諸隈　智貴

編集だより

本学の大学報が「ＮＥＷＳ ＣＩＴ」というネーミングで、現在のタブロイド判に生まれ変わったのは１９９６年の４月。

前身である学報「ならしの」の制作を担当してから３年６カ月目のことだ。それから、かれこれ28年間……え？一瞬、計算して目を疑ったが、とてつもなく長い期間、ＮＥＷＳ ＣＩＴが発行されたことに気づく。

長きにわたって愛された「ＮＥＷＳ ＣＩＴ」も、時代に合わせてリニューアルを！　次号「４月号」から紙面印刷が無くなり、ｗｅｂ上での公開のみとすることに。

通算６８２号。そのうち３５５号分のニュースに携わり、新人の頃は、きっちりと計画を立てて発行していたが、年を重ねるごとに、入稿日ギリギリの綱渡り状態。編集者Ａ氏泣かせの「大橋」と、営業のＨ氏は、さぞ嘆いていたことだろう。

装いも新たになる「ＮＥＷＳ ＣＩＴ」では、引き続き内容の充実を図り、新企画なども取り入れていく予定。今後とも、ご指導ご協力のほど、よろしくお願いします。

入試広報部　大橋　慶子

４月５日（金）入学式、８日（月）前期・春学期授業開始